

# 中学校社会科歴史的分野の学習におけるさきたま史跡の博物館の役割

向井 隆盛

## 1 問題の所在

毎年、さきたま史跡の博物館には多くの義務教育段階の子供たちが訪れる。これは、小学校の第6学年の教科書に、当館に展示してある国宝「金錯銘鉄剣」が掲載されていることによる。また、第4学年における埼玉県の特色の学習においても、埼玉古墳群が事例地として選択されることが多いこともある。一方、当館を訪れる中学生の数は小学生と比べて圧倒的に少ない<sup>(1)</sup>。

学習指導要領の小学校社会科の学習内容と中学校社会科歴史的分野の学習内容を比較してみると、どちらも優れた文化遺産を教材として取り上げるようになっている。異なる点は、小学校では優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めることを目標としているのに対して、中学校では、「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解させる」ことが目標となっている。優れた文化遺産は、その具体的な理解のための教材として扱われている。

本年度、県内の中学校では、生徒が夏休みなどをを利用して当館を訪れ、学習内容のより具体的な理解を図る取り組みがなされていた。また、近隣の中学校からは、中学生向けの出前授業も充実させて欲しいという要望が出されるようになってきている。中学校の教科書にも埼玉古墳群や金錯銘鉄剣は取り上げられており、当館は、中学校社会科の学習においても、一層重要な役割を果たすことができるはずである。これまで、当館においては、博学連携を教育普及の1つの柱に据えて、学校向け学習プログラムの開発に力を注いできた。しかし、小学校と中学校の学習内容や学習方法の違いに着目するという視点からの開発は、まだ不十分である。そこで本稿では、昨年の小学校社会科の教科書分析に続き、中学校社会科歴史的分野の教科書分析を行うこととした。当館が、中学生の学習においても十分に教育力を発揮できるよう、教育普及事業改善の糸口をつかむことが目的である。

## 2 さきたま史跡の博物館の課題

中学校向けの学習プログラムを開発するためには、まず、主たる教材である教科書の掲載内容を知ることである。私は、3年間当館に勤務する中で、「学校では、歴史をどう教えているのか」「今の教科書には何が載っているのか」という問い合わせを学芸員の方から受けたことが多かった。博学連携の事業を今後一層推進していくためには、学校教育の教科書の記述内容を熟知することが前提となる。教科書は、目的をもって児童・生徒に内容の理解を求めるものであり、ストーリー性をもっている。例えば、当館で展示している金錯銘鉄剣は、大和政権の勢力の拡大というストーリー性のもとに掲載されている。こうしたストーリー性を読み取ることを試みながら、本稿では教科書掲載の資料と文言をつぎのように抽出し整理した。

### 3 中学校社会科歴史分野における教科書掲載内容の分析

中学校社会科歴史的分野の学習内容の構成は、小学校における学習内容を踏まえて、時代区分や時代の移り変わりを理解することを大きな柱としている。また、現行の中学校学習指導要領においては、歴史について考察する力や説明する力を育てるために、各時代の特色や時代の転換に関わる内容の定着が重視されている。教科書に掲載される学習内容は、この方針のもとに作成される教育課程に対応するものであることが前提となっている。また、当館の研究対象と最もかかわりの深い学習内容「大和朝廷による統一と東アジアのかかわり」においては、「古墳の広まりに触れる」と、「大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる」ことが条件として示されている。

#### (1) 教科書掲載資料の抽出と分類

東京書籍、帝国書院、清水書院、教育出版、日本文教出版の教科書の古代を扱った部分より、資料を抽出した<sup>(2)</sup>。その後、5社の掲載資料を「代表的な古墳やつくり」「東アジア情勢」「大和政権の広がり」「鉄の普及」「渡来人」の5つに分類し、表1に示した。この分類の枠組みは先行研究による根拠に基づいたものではないが、この内容を基に時代の特色を掘むという意図を、私が教科書から読み取ったものである。

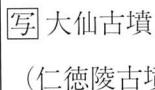
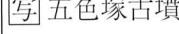
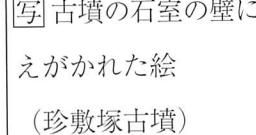
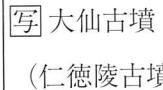
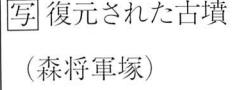
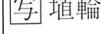
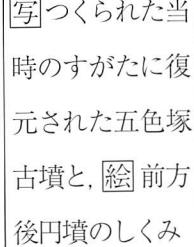
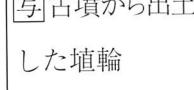
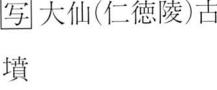
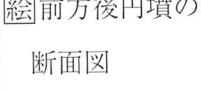
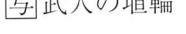
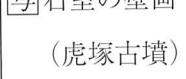
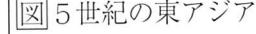
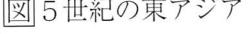
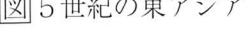
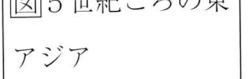
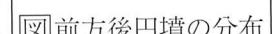
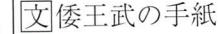
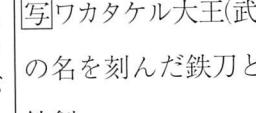
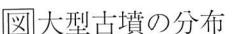
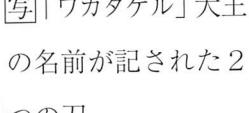
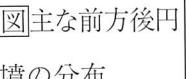
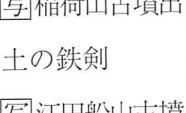
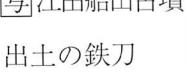
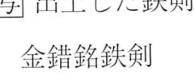
代表的な古墳として大仙古墳が取り上げられているのは、小学校の教科書と共通している。これは小学校の学習を想起させ、時代の特色を端的に捉えるための工夫である。また、古墳の建造当時の様子がわかるよう森将軍塚や五色塚、稻荷山などの古墳を合わせて掲載している。

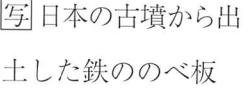
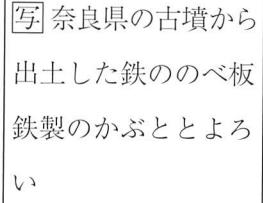
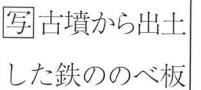
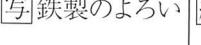
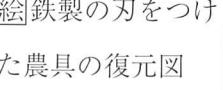
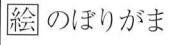
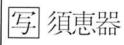
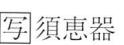
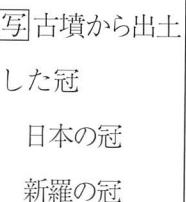
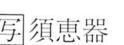
「東アジア情勢」は、どの教科書にも地図が掲載されている。鉄の普及や渡来人に関する資料と合わせて、東アジアの広がりの中で我が国の歴史を捉えられるよう配慮されている。「鉄の普及」については、東アジアのつながりの中で我が国の歴史を捉えるのに適した教材であることから、近年大きく取り上げられている。本年度も埼玉大学附属中学校で行われた授業に、佐々島担当課長が「鉄」の観点からゲストティーチャーとして招かれている。渡来人がもたらした技術として、須恵器を取り上げている点は、小学校と共通している。

前方後円墳の分布と銀象嵌銘太刀・金錯銘鉄剣の出土から大和政権の勢力の拡大を捉えさせる仕組みは、小学校と共通している。教科書によっては出雲や筑紫などの対抗勢力の存在に注目させることで、大和政権の拡大という事象を引きだそうという意図も見られる。唯一、前方後円墳の分布図を掲載していない帝国書院の教科書は、鉄の分布図を載せ、本文中で大和政権との結びつきによって地方の豪族が前方後円墳を造ることができるようにになったり、鉄製品の製作技術を手に入れたりしたのではないかという説を紹介している。

中学校社会科歴史的分野の教科書は、その掲載資料の多くが小学校社会科の教科書と類似している。ただし、多面的な見方を一層重視する中学校段階ならではの特徴も見られる。例えば、大和政権の広がりは、技術の伝播という側面もある。鉄の普及を教材として取り上げていく意義は、そこにあると考えられる。

表1 中学校社会科歴史的分野教科書掲載の資料

	東京書籍	帝国書院	清水書院	教育出版	日本文教出版
代表的な古墳やつくり	<p> 大仙古墳 (仁徳陵古墳)</p> <p> 五色塚古墳</p> <p> 武人埴輪</p> <p> 古墳の石室の壁に えがかれた絵 (珍敷塚古墳)</p>	<p> 大仙古墳 (仁徳陵古墳)</p>	<p> 大山古墳</p> <p> 復元された古墳 (森將軍塚)</p> <p> 埴輪 家</p> <p> 子を背負う女性</p>	<p> 大仙古墳</p> <p> つくられた当 時のすがたに復 元された五色塚 古墳と、 前方後円墳のしくみ</p> <p> 古墳から出土 した埴輪 武人</p>	<p> 大仙(仁徳陵)古 墳</p> <p> 稲荷山古墳</p> <p> 前方後円墳の 断面図</p> <p> 武人の埴輪</p> <p> 銅鏡</p> <p> 石室の壁画 (虎塚古墳)</p>
東アジア情勢	 5世紀の東アジア	 5世紀の東アジア	 5世紀の東アジア		 5世紀ごろの東 アジア
大和政権の広がり	<p> 前方後円墳の分布</p> <p> 倭王武の手紙</p> <p> ワカタケル大王(武) の名を刻んだ鉄刀と 鉄劍</p> <p>銀象嵌銘太刀 金錯銘鉄劍</p>	<p> 稲荷山古墳出土の 鉄劍(金錯銘鉄劍)</p> <p>江田船山古墳出土の 鉄刀(銀象嵌銘太刀)</p>	<p> 大型古墳の分布</p> <p> 「ワカタケル」大王 の名前が記された2 つの刀</p> <p>銀象嵌銘太刀 金錯銘鉄劍</p>	<p> 主な前方後円 墳の分布</p> <p> 稲荷山古墳出 土の鉄劍</p> <p> 江田船山古墳 出土の鉄刀</p>	<p> 前方後円墳の分 布</p> <p> 出土した鉄劍 金錯銘鉄劍</p>

鉄の普及	 日本の古墳から出土した鉄のべ板  奈良県の古墳から出土した鉄のべ板 鉄製のかぶととよろい		 古墳から出土した鉄のべ板  鉄製のよろい	 鉄製の刃をつけた農具の復元図
渡来人	 須恵器  のぼりがま	 須恵器	 須恵器  古墳から出土した冠 日本の冠 新羅の冠	 須恵器
発展		古墳からわかる当時のようす	地域の遺跡や古墳を訪ねて	

## (2)教科書掲載の太字語句の抽出

古墳時代の本文に示された学習内容を抽出し、大きく「大和政権の拡大」と「東アジアとのかかわり」の2つに分けて表2にまとめた。

「大和政権の拡大」においては、大和政権(ヤマト政権)、前方後円墳、古墳時代、大王などの基本的な語句は、5社とも共通である。大王の読みについては「だいおう」「おおきみ」と分かれたり、併記してあつたりと統一されていない。東京書籍においては、「古墳文化」という記載があるが、これは伝統や文化の教育を重視する昨今の流れを受けたものであると考えられる。学習指導要領解説社会編においても、文化の具体的理解のために博物館を利用することを進めている<sup>(3)</sup>。

「東アジアとのかかわり」においては、「高句麗・百濟・新羅・伽耶地域(任那)」などの地名と「渡来人」の語句はほぼ共通している。しかし、地名についての読みは統一されていない。

教科書に太字で示されている語句は、知識内容としての基礎的基本的な学習内容であって、全ての生徒が理解すべき言葉であると理解される。共通する言葉が多いのは、そのためである。掲載資料と比べると鉄の普及に関する語句が見られないのは、鉄の普及は教材の一つに過ぎないためである。つまり、鉄の普及の部分については当館独自の教材を用意し、特色を発揮することも可能だといえる。

表2 教科書本文中の太字語句

	東京書籍	帝国書院	清水書院	教育出版	日本文教出版
大和政權の拡大	大和政權の発展	古墳の出現	ヤマト王権の支配	古墳の出現	巨大な墓とヤマト王権
	大和政權	前方後円墳	前方後円墳	古墳	古墳
	古墳	豪族	古墳	豪族	ヤマト王権
	古墳時代	古墳時代	ヤマト王権	埴輪	
	大王	ヤマト王権の支配の拡大	大王	古墳時代	大王・豪族と人々の生活
	古墳文化	大王	豪族	大和政權の成立と豪族	大王
東アジアとのかかわり	中国・朝鮮半島との交流	倭国と朝鮮半島の関係	東アジアの動乱	朝鮮半島・中国との交流	中国や朝鮮との交流と渡来人
	百濟 新羅 伽耶	高句麗 百濟 新羅	渡来人		高句麗 百濟 新羅
	地域(任那)	ヤマト王権	漢字 仏教		渡来人 須恵器
	大陸文化を伝えた渡来人	渡来人		渡来人の伝えた文化	
	渡来人 朝廷	渡来人		渡来人	

4 埼玉古墳群及びさきたま史跡の博物館展示資料と中学校社会科歴史的分野の接点  
中学校社会科歴史的分野の教科書に掲載された学習内容を整理すると、埼玉古墳群や当館展示資料との接点が見えてくる。その中の幾つかをここで指摘しておく。

代表的な古墳や古墳のつくりについては、教科書にも掲載のある稻荷山古墳に加え、将軍山古墳を積極的に取り上げることが望ましい。古墳の仕組みを知るという点からも、将軍山古墳展示館を有効利用した中学生向けの学習プログラムが考えられる。稻荷山古墳との比較において、古墳の造形について積極的な思考を促す学習活動が想定される。

東アジアとのかかわりについては、特に馬冑や蛇行状鉄器、ガラス玉などを取り上げた学習プログラムが考えられる。鉄や馬などの視点からの教材開発はこれまでにもなされているが、ガラスというアプローチも有効である。幸い、埼玉県内の他の古墳からもガラス玉の出土は豊富にある。また、県北部では、完全な形でのガラス小玉の鋳型が出土している。これらも合わせて教材化し、当館の行っているガラス玉づくりの体験学習と合わせてパッケージ型の学習プログラムとすることも考えられる。

金錯銘鉄剣は、大和政権の拡大の証拠として取り上げられることが多い。実物を保管し、その研究を行っている当館だからこそ、そのストーリー性に対して、批判的なアプローチを行う学習プログラムを提供することができる。社会科においては、児童・生徒の批判的な思考を育てる場面を大切にすることがよく主張される。しかし、歴史的分野の学習においては、なかなかその機会をもつことは難しい。しかし、いろいろな可能性を有する金錯銘鉄剣は、そうした批判的思考を促す教材として適している。それこそ、考古学者の思考を追体験することであり、問題解決的な学習における児童・生徒の基本的な思考過程を経験させることとなる。

## 5 さきたま史跡の博物館の今後の課題

本年度は、中学校5年次研修を新たに受け入れ、中学校社会科の授業展開について考える場を設けることができた。来年度も中学校5年次研修が予定されており、そこでは、具体的な学習プログラムの提案ができるように準備を進めておくことが必要である。小中初任者研修、高校5年次研修とは異なり、中学校5年次研修は、当館が学校教育における歴史学習と積極的な関わりをもつ橋頭堡となり得る。また、教員向け研修「授業に使える考古学」においても、学習プログラムの開発が不可欠である。この2つの事業を車の両輪として、開発・提案のサイクルを確立することが、当館の課題である。

### 《註》

- (1)平成27年度は小学生の利用者34,420人に対し中学生の利用者2,700人であった。
- (2)平成28年度中学校教科書地区別採択一覧(埼玉県教科書供給所)からは、公立中学校においては東京書籍の教科書を採択するところが多いことがわかる。今回は分析していないが、私立の学校等においては、学び舎や育鵬社の教科書も採択されており、今後分析の対象とする。
- (3)文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』pp90-91内容の取扱い3(1)カ

### 《引用文献》

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版 平成20年9月25日
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社 平成20年8月31日
- 坂上康俊・戸波江二・矢ヶ崎典隆他著『新編新しい社会 歴史』東京書籍 平成28年2月10日
- 深谷克己他『中学社会 歴史 未来をひらく』教育出版 平成28年1月20日
- 黒田日出男監修『社会科 中学生の歴史』帝国書院 平成28年1月20日
- 藤井譲治・林敏彦他著『中学社会 歴史的分野』日本文教出版 平成28年2月10日
- 三谷博他著『中学 歴史 日本の歴史と世界』清水書院 平成28年2月15日
- 堀内一男・大杉昭英・伊藤純郎編著『中学校教育課程講座 社会』ぎょうせい 平成21年1月10日